

石巻健育会病院

症 例 概 要 2025年7月30日 カムチャッカ半島付近を震源とする地震発生。

病院ではほとんど揺れを感じられなかった。

8時30分頃、津波注意報が発令された。院内でかすかに市内の防災警報の音が聞こえるスタッフがいた程度であった。

9時40分頃、津波注意報が津波警報に切り替わり、院内マニュアルに準じて外来患者や通所利用者、ナースインホームの利用者、一階職員の避難が開始された。防災警報音が大きくなり、当院へ避難してきた近隣住民も受け入れた。

内 容

この度の津波警報発令という事態において、当院は患者さんやご利用者、地域住民の皆さんにとって安全な避難場所となり、温かい食事の提供をはじめとする様々な支援を行うことができました。同時に、入院患者さんのケアやリハビリテーションも滞りなく進めることができました。避難された方々から感謝のお言葉を頂戴するとともに、職員一同、地域医療に携わる者としての責任の重さを改めて実感することができました。

今回の迅速な対応は日ごろからの防災訓練に加え、近年推進してきたDXによる院内連携の強化が大きく貢献したことが考えられます。過去の津波発生時の経験をもとに定期的な防災訓練の実施、備蓄物資の充実を図っていました。そのことに加え、スマホのLineWorksにより、組織全体で職員がリアルタイムに状況を把握、問題を共有、各部署で連携しながら避難誘導、医療提供、生活支援にあたることができました。指示伝達は迅速に行われ、避難者の対応にあたるスタッフ、通常の業務にあたるスタッフとそれぞれの人員配置を最適化することができ、LineWorksの情報共有ツールとしての効果を確認しました。

当日、医師は院内で他スタッフを先導するように患者の不安を傾聴し、安心できる環境づくりに務めていました。

事務スタッフは1階から上位階に避難誘導を行った後、外来患者さんの不安を傾聴しながら対応し、少しでも安心して頂ける環境設営に努めました。

看護師は、外来患者さんやナースインのご利用者の酸素・吸引等の手当の他、受け入れた方々の体調やメンタルの管理を行いました。当日、看護部では高校生を招いた看護体験会が行われていま

た。安心して体験会をできるよう、会話を大切にしながら対応し、最後まで体験会を実施することができました。帰宅時の安全確保ができるまで学校、ご家族とも情報共有しながら院内で過ごし、不安なく体験会を終えることができました。

リハビリは入院患者や警報発令前に来院した外来患者に対し普段通りのリハビリを実施することができていました。外来患者は帰宅できない状態となりましたが、そのまわりハ室で過ごしていただきました。不安な様子もありましたが、疲れた方は横になって頂くなど周囲のリハスタッフが声かけを行い混乱なく帰宅まで過ごすことができました。

栄養科は入院患者の通常の食事提供と並行して、避難者へ昼食の提供を行いました。避難者にはカレーライス、スープ、パンを提供し、避難時にもかかわらず温かい食事を召し上がることができた避難者たちからは感謝の言葉や「おいしいね」「こんなときに食事まで頂けるなんて」「家でもカレーなんて食べないよね」など笑顔を見ることができました。

緊急時に病院スタッフがチーム一丸となり落ち着いて、親身に対応できたことで患者さん、避難者の不安を取り除き、安心できる避難環境の提供や普段通りの入院生活を継続できたと考えます。

当日中に、LineWorks上で各部署が振り返りを行ない、その場では気付かなかった多くの反省点や工夫を収集。次の災害への備えとして活かしていきたいと思います。